

後見人等候補者の養成にかかわるカリキュラム

1. 研修カリキュラム 【基礎講習】

基本項目	時間	学習内容	具体的内容	学習の意図・目的	講師	参考
権利擁護サポーター養成講座	1	市民後見人とは	・なぜこの講習を行うのか。 ・市民成年後見人とは何か ・市民成年後見人に求められるもの	・清瀬市における市民後見人の位置づけについて学ぶ。	行政職員 推進機関職員	
	1	社会福祉協議会と地域活動について				
		注意点		・知り得た情報は他に漏らさない などプライバシーの配慮など		
		実習等計画、実習内容の説明				
		今後のスケジュール 等				
成年後見制度や関連制度など	2	成年後見制度の基本理念と概要	・成年後見制度とは ・同意権・取消権、代理権の内容と活用 ・後見報酬について ・後見人ができることできないこととはいけないこと ・実際の支援上の課題		弁護士	市民向けセミナー兼
	2	日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)	・地域福祉権利擁護事業		東社協	
後見人活動報告・演習	1	市民成年後見人の活動報告	・推進機関登録後の活動について ・社会貢献型後見人の業務について ・推進機関・後見監督人とのかわり		推進機関 市民成年後見人	H26権利擁護サポーターで¥5,000
基礎講習(講義)	3	被後見人等への支援の基本的な視点	・個人の尊厳と自己決定の尊重 ・能力とは何か ・残存能力の活用について ・自己決定の特色と援助の必要性 ・後見人としての判断基準 ・成年後見制度が必要とされる理由	・後見人の意思や家族の意思ではなく、本人の意思を尊重することについて学ぶ。 ・制度の背景を学ぶ。	社会福祉士	
			・後見人に必要な法律知識 ・業務に関連する法律 ・法律知識をどのように生かすか	・日常的な契約(福祉サービス、医療サービス、生活支援)	弁護士	
	2	障害の理解と対象者理解(認知症)	・認知症について ・支援に際しての基本的態度や留意点		精神科医 福祉関係者	認知症サポーター養成講座兼
	2	障害の理解と対象者理解(知的障害)(精神障害)	・知的障害/精神障害について ・支援に際しての基本的態度や留意点		精神科医 福祉関係者	
	3	本人を支える制度と社会資源(身上監護を含む)	・社会資源とは ・被後見人が利用できる社会資源の概要 ・相談機関	・介護保険、障害者自立支援、生活保護、国民保険、年金などの制度について理解し、市民後見人としての活動の中でどう関係してくるのかを学ぶ。	行政職員	市民向けセミナー
対象者理解及び関連制度理解	2	消費生活相談の実態と対応	・消費者被害の特徴・対処方法 ・クーリングオフについて ・消費者センターの機能と役割 ・消費者被害の予防方法日常的な見守りの大切さ		消費生活センター	
	3	後見人活動報告・演習	・後見業務の流れ ・家庭裁判所・後見監督人の役割について ・事例を通しての実際の後見業務(後見人業務を行う上での工夫、今後の課題について)	・書類作成の技術習得の他、学習を通して、日頃からどのような書類を作成しておかなければならないか、何に気を付けておく必要が理解する。	司法書士	
			・演習によりこれまでの受講内容を統合して理解する ・後見人としての身上監護、どのような時・場合に、どのような社会資源を利用するのか	・誰のための権利擁護なのかということ、演習を通して対応の仕方学ぶ。 ・グループワークを通じて、自己の価値観に気づき、本人のための支援に活かす。	社会福祉士	
	2	対人援助の基礎(被後見人に対する)		・社会福祉援助技術の基本を学び、成年後見人等としての対応を考える。	社会福祉士	生活支援員研修兼
0.5	効果測定(小テスト、レポート等)		・自らの言葉としてまとめることで学習の理解度を固める。			
計	29.5					

2. 研修カリキュラム 【応用・選択】

基本項目	時間	具体的内容	ねらい	講師	参考	
後見人活動報告・演習	4	高齢者施設実習			施設ボランティア体験	
	4	障害者施設実習			施設ボランティア体験	
	6	後見関係事務演習(申立て時書類、財産目録、後見等計画書、収支予定表、報告書、終了時手続等)		・登記事項証明書の取得方法や、財産調査の方法の他、事務的な手続きの方法について学ぶ。	司法書士 社会福祉士	司法書士 社会福祉士等
	2	後見監督・サポート説明			推進機関職員	
計	16					

3. 実習活動

基本項目	時間	具体的内容	ねらい	講師	参考
地域福祉権利擁護事業における生活支援員	月2回2.3時間 年48~72時間	福祉サービスの利用援助(相談、情報提供等) 金銭預かりサービス(銀行において預金出し入れ) 支援計画に基づく利用者訪問、声掛け等身上監護等			
専門職、市民後見人について同行実習	4~8	利用者対応、関係機関との調整など実際の対応を学ぶ			
計					